村の中でもめ事があれば調停役を買って出るし、灌漑（かんがい）などの農業土木の場面ではリーダーシップを取る。まるで町内会長だ。そしてもちろん、戦があれば村人を指揮して闘う。兵農分離以前の村には、刀も槍も弓矢もあった。黒澤明監督の『七人の侍』では、農民たちは村を守るために流れ者の侍を雇うが、戦国の村は、武装した戦闘集団であり、村への脅威は自分たちで跳ね返した。同じ苗字や同族であることを許された者たちが寄り集まって「同名中惣（どうみょうちゅうそう）」という組織を形成し、村の自治を行う。こうした惣がさらに連合し、代表を選出して郡単位の自治組織を結成する。これが、甲賀郡中惣。戦国の近江に奇跡的に成立した共和国（リパブリック）だ。共和国を指導したのは、後に「甲賀五十三家・二十一家」と呼ばれることになる土豪たち。長享元（1487）年、室町幕府の将軍・足利義尚に攻められた際に、観音寺城を放棄した六角高頼が頼ったのが、この土豪たちだった。彼らは村を見渡せる高台や川沿いなどにいくつも城を築き、それらをネットワークで結んで地域の安全を確保した。

集権的支配の拠点、水口岡山城の諸行無常

しかし、これらの甲賀の城館群も、織田信長などの天下人の登場によって、その役割を失っていく。そして、甲賀郡中惣は、紀州攻めに端を発した1585（天正13）年の甲賀ゆれによって解体されてしまう。その後、豊臣秀吉は中村一氏に命じて、甲賀支配の拠点となる水口岡山城を築城。その姿は、甲賀共和国を支えた「土の城」ではなく、石垣と瓦葺きの建物を備えた新しいタイプの城郭であった。その水口岡山城も、関ヶ原の戦いで西軍が敗北し、廃城となる。一方、甲賀の土豪たちは帰農して徳川幕藩体制を生き延びた。甲賀武士の有力氏族の一つである望月氏の館は、現在、甲賀流忍術屋敷として多くの観光客を集めている。

水口岡山城跡
甲賀市水口町水口
【交通アクセス】
JR草津線「貴生川」からはーとバス
「水口小学校」下車すぐ
JR草津線「貴生川」からあいくるバス
「新水口」下車すぐ

中近世の甲賀―水口を往く

甲賀市教育委員会提供

水口岡山城
2012年より甲賀市教育委員会による発掘調査が行われ、櫓（やぐら）台跡や虎口（こぐち）跡などが発見された。豊臣政権の重要拠点だった歴史的背景に加え、城の遺構が良好に残ることが高く評価され、2017年2月「国史跡」に指定。

甲賀市教育委員会提供

破城の跡
関ヶ原の戦いで水口岡山城主の長束正家は西軍に属して敗北。城は廃城となり、表の石垣は徳川の城である水口城築城に転用されたが、裏手の石垣はよく残っている。

水口岡山城バルーン
地元有志が結成した「水口岡山城の会」は、水口岡山城をはじめとする郷土史の研究に精力的に取り組んでいる。同会が制作した水口岡山城のバルーンは高さ11m。イベントのたびに城跡に勇姿を見せる。

（公社）びわこビジターズビューロー 提供

甲賀流忍術屋敷
甲賀武士の有力者である望月氏の旧邸。忍者の実態は必ずしも明らかではないが、甲賀の土豪たちが江戸時代を通じて独自の技術を開発し、伝えてきたことが分かる。